

3校で取り組む授業へのICT活用と情報モラルを育成する教職員研修
ー 研究を推進する3校から入間市27校に拡大するICT活用の定着を目指してー

入間市学校ICT活用研究会

- 研究代表者名 内藤定芳 1)
共同研究者名 品田豊邦 2)
山本文司 3) 山下貴史 4) 柚木美紀 5)
要田徹也 6) 小澤淳彦 7) 會田充志 8)

要約

学校のICT環境の整備について、文部科学省は平成17年度までに、「全ての小中学校等が各学級の授業においてコンピュータを活用できる環境を整備する」「全公立学校教員がコンピュータを用いて指導できるようにする」とした。

しかし、この目標は大きく損なわれ、新たに「IT新改革戦略」が策定され、「教員一人1台のコンピュータの配備」が、目標として掲げられることになった。

ICTの活用については、長期にわたる系統的な研修が不可欠であるとの認識がなかなか浸透せず、研修機会の確保はおろか、消耗品費にわたる資金さえも十分ではない。

そこで今回、上月スポーツ・教育財団の研究助成をいただくのにあたり、次のような目標を設定した。

- 1 東金子中学校を事務局に、当面市内3校のIT教育推進者を含む6名で「入間市学校ICT研究会」を組織する。各校のリーダーを中心に、文科省が進める「IT新改革戦略」に沿って、まず授業へのICT活用を行う。無線LANの活用を各校内で推進する。
- 2 各学校では、情報モラルやセキュリティーの管理などを含む「情報活用研修会」を計画し、外部講師等も活用しながら夏季休業中に15時間程度の系統的講習を行う。
- 3 集中的な授業研修会を適宜開催し、19年11月に予定される市内の研究発表会で、公開授業校として普及を図る。
- 4 校内の研修会では「プレゼンテーションの能力」「デジタルビデオの編集」など、時代に適合した内容を職員の希望により取り上げ、100%指導可能な教員の育成を図る。

本稿は、主に入間市立東金子中学校の校内研修と指導のための研究について述べたものである。研究の成果として次の項目を記述した。

- 1 教職員が情報機器の有効性を知り、活用することに積極的になった。
- 2 情報機器の整備が進み、授業の形態や質が確実に変化してきた。
- 3 生徒が積極的に情報機器を活用するようになった。
- 4 「ネットいじめ等」の問題に対処するための事例やノウハウが多く蓄積され、研修の成果で担任レベルでの指導が可能になった。
- 5 念願だったICT向上研修会の第一回が実施できた。
- 6 入間地区の多くの先生方に、ICTを活用することの良さを啓発できた。

代表者勤務校：入間市立東金子中学校

- 1)入間市立東金子中学校長 2)入間市立東金子中学校教頭 3)～5)入間市立東金子中学校教諭 6)入間市立高倉小学校教諭 7)入間市立藤沢北小学校教諭 8)入間市立金子中学校教諭

1 問題点の所在

平成18年度筆者が本校に赴任したとき、平成17年度に機器整備が完了するとした「ミレニアムプロジェクト」は、入間市では道半ばの状況であった。本校でインターネットのできる部屋は、校長室と職員室のみであった。勿論コンピュータ室では生徒も利用可能であったが、職員にとっても常時利用可能な状況とは言い難かった。それでも、校内LANを活用した授業が可能なのは本校だけであり、市当局からの期待も大きかった。

本校でも例に漏れず、過去にチェーンメールによる被害、裏サイトによる学校攻撃、なりすまし事件など、社会問題となっている殆どの問題は経験している。

掲示板による級友の中傷やネットいじめが明らかになり、朝会等で校長が直接指導した。当時の現状から考えると、生徒は勿論教職員も、情報モラルやセキュリティーの管理についても十分とは言えなかった。校長会議の際でも市内各校の状況を報告してもらったが、中学校の殆どで同様の問題を抱えていることが確認できた。中学校11校のうち2校が、夏季休業中の校内研修で、短時間の協議まで行えたという事例が報告された。

教職員への研修が不十分な状況では、生徒への指導など至難の業である。ネットのモラルやエチケットは、指導できないということに他ならない。そしてこのことは、市内27校の問題でもある。本校を起点として、子供達のモラルを高める方策と、教職員の資質向上策を、入間市全域で取り組みたいと考えた。

2 研究の目標と方法

上月スポーツ・教育財団の研究助成に応募するにあたり、次の方針を掲げた。

- (1) 東金子中学校を事務局に、当面市内3校のIT教育推進者を含む6名で「入間市学校ICT研究会」を組織する。各校のリーダーを中心に、文科省が進める「IT新改革戦略」に沿って、まず授業へのICT活用を行う。無線LANの活用を各校内で推進する。
- (2) 各学校では、情報モラルやセキュリティーの管理などを含む「情報活用研修会」を計画し、外部講師等も活用しながら夏季休業中に15時間程度の系統的講習を行う。
- (3) 集中的な授業研修会を適宜開催し、19年11月に予定される市内の研究発表会で、公開授業校として普及を図る。
- (4) 校内の研修会では「プレゼンテーションの能力」「デジタルビデオの編集」など、時代に適合した内容を職員の希望により取り上げ、100%指導可能な教員の育成を図る。

具体的内容は以下の通りである。

- ① 教職員が日常的にインターネットの授業利用や情報活用を図ることにより、ネット社会におけるITの役割や、光と影、モラルの向上などに、生徒自らが取り組めるように指導する。
- ② 生徒自らが関心を持った事象に対して調査・研究し、その内容を一般に普及し共有するために、プレゼンテーションソフトや映像を使えるための、指導者の資質を育成する。
- ③ 教科におけるインターネット活用は、全県的に見ても途上である。埼玉県立教育センターなどとも提携し、指導者を要請した研修会などを多く計画して、教員の育成に資する。
- ④ 入間市で無線LANが設備されているのは本校だけである。全市的な敷設・整備を行ってもらうためには、教職員からの実践による要望が不可欠である。まずは実現可能な実験校3校が共同して授業活用し、27校全部を動かしてみたい。
- ⑤ 教員が育てば生徒に指導する機会も増える。カリキュラムを検討しモラルやセキュリティーの指導場面なども設定して、健全なネット活用の定着を図る。

3 入間市の ICT 活用を推進する東金子中学校の 3 年間の取組

(1) 学校のミッション（学校教育目標）から

本校の学校経営方針の中に「情報モラルを絶えず問いながら、ICTの活用を積極的に進める生徒を育成する。」とある。そこで研修の中心課題として、学校経営方針を受けて、本年度の研修が計画された。

本校では3年前に校内LANが整備され、以来、校内全ての教室でインターネットを活用することができるように検討を進めてきた。また、19年度からは「上月スポーツ・教育財団」の支援を受け、2年間にわたり、「ICTを活用した授業の研究」を推進してきた。そのような中で、昨年、一昨年度は、情報部の教員を中心に授業実践を企画し、授業公開等も行ってきた。さらに、情報モラルに関する研修を実施するとともに、研修成果を地域に発信する場として、地域の方を対象とした情報機器の取り扱いに関する研修会や、青少年健全育成会議の総会などでも情報モラルに関する講演会を実施してきた。

そのような中で、20年度は全教員が、教室の校内LANを活用した授業の実践を計画し公開授業として行う中で、年間最低1回の実施を目指した目標がほぼ実現できた。

考えられる視聴覚機器との併用も行う中で、授業方法の改善が、日々確実に図られるようになってきた。

(2) 本校生徒の実態

生徒の活動については、生徒会を中心に、委員会活動や小中連携も積極的に行う姿が見られる。地域へも積極的に出かけ、環境学習やボランティア活動を実施したりしている。教職員や生徒の努力により、ノーチャイムの中で、整然とした規律ある学校生活を送っている。

一方、全国学力調査等の結果分析から考察すると、以下の状況が概観できる。

- ① 「自分に良いところがある」「近所の人にあいさつをする」「新しい発見をしている」などの項目については、全国平均を上回っている。
- ② 「携帯電話やゲームに費やす時間が多い」「家庭学習の時間が少ない」などの問題点も見られる。
- ③ 情報機器に関する取り扱いについては、多くの生徒が家庭にインターネットを使用できる環境下にある。
- ④ 携帯電話の普及率は高いが、モラル面での問題点を十分に理解していない生徒も実際に存在する。また、情報ソフトの使用については未熟な生徒も数多く見られる。

情報活用研修の概要から（東金子中学校）

(1) 平成18年4月25日 情報教育研修目標を設定

「校内LANの活用」「職員の情報活用能力の育成」

(2) 推進部会の実施 4/25 5/15 6/19 7/10 7/26 8/29(全体会) 10/12(推進委員会) 10/19(推進委員会)

(3) 情報教育 教職員向けアンケートを実施 後日集計結果を公表し、夏季休業中の研修内容を決定する。

(4) 夏季休業中 情報教育研修資料を全職員向けに実施した。

7月26日(水)前半 デジタルカメラを使おう・・・写真の取り込みからファイル操作まで

7月26日(水)後半 パワーポイントを使ってみよう アニメーション効果までの操作

(5) 10月19日 入間市情報教育実践授業研究会を本校で実施

授業者 山元丈司教諭

単元名 科学技術と人間 科学技術の進歩と人間生活 校内LANによるインターネット活用

市内から 教職員 18 名が参加して、授業参観後研究協議を行う。菅野指導主事と、財政当局とのパイプ役である山本教育総務部長が来校し参観された。(本研究会が契機になって、入間市の校内 LAN 設置が 20 年度迄に実現した。)

(6) 12 月 1 日 次年度の研究について推進委員会を実施。

三年計画 1 年目としての成果

- 校内LAN活用企画(情報部)
- 校内無線LAN環境調査(情報部)
- 校内LAN活用への条件整備
- 情報機器の取り扱いに関する研修
- 情報モラルに関する研修
- 校内LAN活用研修会の実施
- 授業研究会(入間市教育研究会情報部会・入間市情報教育推進委員会共催)



1 年目は校内LANを確立する計画を立て、校内の無線LANの環境調査を、専門家を交えて実施した。校内の電波状況を把握し、各クラスで無線LANが利用できることを確認した。校内LANの設置後、校内LANの活用に関する研修会を経て、2 学期には、入間市情報教育推進委員会・入間市教育研究会情報部の共催で、授業研究会を実施した。教科は理科、単元は「新素材」の単元で、情報機器から得られる情報と、実物を提示できるものを区別し、情報機器をうまく活用した授業が展開された。

4 上月スポーツ・教育財団研究助成後 2 年間の取組

「校内LANによるICTを活用した授業実践と、情報モラルを高める指導法の研究」

生徒の実態を踏まえ、そこから導き出された課題を解決するために、上記の研究主題を設定し、教員としての資質向上を図って学校教育目標の具現化を目指す。また、校内LANの活用を図ると同時に、入間市・入間地区全体に情報活用に関して普及させる足がかりとする。生徒の実態改善のため「情報モラル教育」「情報機器の活用の充実」を図ることをポイントとした。

(1) 平成 19 年度の取組

本校としては、3 年計画の 2 年目となる。主な研修内容を記す。

- 上月スポーツ教育財団から助成決定
- 情報機器の取り扱いに関する研修
- 情報モラルに関する研修
- 各班ごとに、ICT、視聴覚機器等を活用するための研修会を実施
- 校内LANの活用に関する研修
- 授業研究会を入間市教育研究会情報部会・入間市情報教育推進委員会を共催し、当日教育講演会を本校で実施



校内無線LANを活用して各教室でインターネット接続

(2) 研究組織の見直し

平成 19 年度当初の人事異動により、財団に申請した研究員に異動が生じた。本校に新たに赴任した品田豊邦教頭を校内の中心者として、各校の研究員との連携を密にした。財団からの助成金が見込まれることになり、各研究員がこの題目で取り組む研究に、費用の弁済が可能になることや、先進地の視察等に積極的に参加するように促した。

(3) 東金子中学校校内研修会の事例 1

内容 ホームページ、ブログ、プロフから生じる問題点

日時 平成 19 年 7 月 23 日 9 時～於パソコン室

指導者 山下教諭

内容 1 「プロフ」の実態

2 個人が特定される流れについて

3 「みっちゃん」のプロフから、個人情報を探り出す方法があることを学ぶ

※ 当日は、山下教諭が自作した「みっちゃん」という仮定の生徒のプロフ、「みっちゃん」の友人のブログ、学校の部活動を掲載したホームページをリンクさせ、みっちゃんの学級、部活動、校内での活動などを探り出す方法が、ごく簡単に行えることを提示した。この教材は、事例 3 の入間地区授業研究発表会で実際に 1 学年に指導が行われた。そして、当日参観していた西部地区の中学校から要請があり、2 月に出前授業が行われた。

協議内容

Q このことから、生徒にどのように指導するのか。

A 自分が、他人にはわからない情報だけ載せていると思っても、リンク情報等により、秘密にすべき個人情報が、自分の知らない他人に分かってしまう。

補 1 年生で、ブログを持っている生徒が三分の一（本校で）いる。メールのやりとりだけでも数時間費やす生徒もいる。重要な部分はブロックをかけて、親には簡単に見られないようにしている場合が多い。

(4) 東金子中学校校内研修会の事例 2

内容 「埼玉県の指導者講習会の報告と情報モラル・セキュリティマネージメントの問題点」

日時 平成 19 年 7 月 24 日 13 時 30 分～於パソコン室

指導者 山下教諭、山本教諭

1 あいさつ 本日と明日の研修日程

2 今どき小・中学生のパソコン事情

・本校の技術科で取り扱っている情報教育の内容

・モラル・セキュリティーに関しては技術科のみではカバーできず、全校的な取組が必要

3 JAPET すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイドを活用した指導

・第 1 部 情報モラル教育の必要性と指導カリキュラム

◇情報モラル指導モデルカリキュラム表

◇指導は初めて・・・という先生へ

「学校全体で取り組む情報モラル指導の要点」

→携帯電話も含まれる

→一度やればいいというものではない

4 Winny の被害

(1) Winny とは何か → PowerPoint を使用した指導

・感染経路 ・ウイルス侵入 ・偽装ファイル ・情報流失

→ 事例、指導方法などがキックオフガイドにあるので活用して欲しい。

5 まとめ

・問題点は近隣でも発生しており、入間市でも厳しく対処している。

→個人情報や成績等も、HDに今後入れないようにする。

・官公庁では、メモリースティックも使わないように制限している。

(5) 東金子中学校校内研修会の事例3 「ICT活用授業研究発表会」を本校で実施

19年度の最大目標であった研究発表会が入間市教育委員会との共催事業となり、10月31日(水)に実施できることになった。当日は、入間地区からの教職員の参加を得るために、入間地区学校視聴覚教育連盟の委嘱事業とした。

本研究会は本校の校内研修でもあり、地区内外からの参加者を含め、60数名の協議会となった。(財)上月スポーツ・教育財団の助成事業とさせていただいた。

当日は、14時から公開授業を3名の教諭が行い、ついで、政策研究大学院大学の岡本薫教授に、「回想：学校教育情報化 ～学校情報化を妨げていたもの～」の演目で、講演をいただいた。以下に、校内LANを活用した公開授業の概要を述べる。

① 1年1組理科 指導者 山本丈司教諭 1年1組教室

題材名 音の世界

インターネットの活用について

昨年度実施した授業の中では、新素材について、実際に体験できる内容については実物を提示し、実物の提示が難しい内容について、埼玉県総合教育センターの教育用コンテンツを活用して、資料を提示した。

本授業では、理科ネットワークの教材などを授業に取り入れた。インターネットのサイトはあくまでも、本授業の中では学習内容をわかりやすくするための手段であり、他の情報機器と同等に捉えている。

理科ネットワークの教材は活用しやすいものが多く含まれ、大変有効である。

学習内容

ア 実験4 (ギターとモノコードの振動) を行う。

イ 音の大小と物体の振動の関係を調べる。

ウ 実践4の結果を確認する。

エ 音の大小と振幅の関係について説明を聞く。

→インターネットを活用して音の大小を波形で表す。

オ 音の高低と振動数の関係について説明を聞く。

→インターネットを活用して音の高低を波形で表す。

カ 超音波を活用している動物や医療技術について説明を聞く。

→インターネットを活用して資料を提供する。

② 1年3組技術・家庭科 指導者 山下貴史教諭 1年3組教室

題材名 「情報社会を生き残れ！」B 情報とコンピュータ (2)

インターネットの活用について

小学校からコンピュータを使用した授業を受けており、基本的な操作は行える生徒が多い。家庭でもコンピュータや携帯電話を用いて、インターネットを利用している生徒が目立つ。しかし、これらの情報手段の特徴を深く考えずに扱っている面もあり、メールや掲示板・プロフなどに関係するトラブルも生じている。

本時では、情報手段の特徴や生活と、コンピュータとの関わりについて理解させると共に、生活をより良く工夫し創造する能力を育成する。

学習内容

- ア 情報社会に係わる自分たちの現状を知る。
- イ 本時の課題を把握する。
- ウ 情報社会の特徴を知る。
- エ 考えを発表する。
- オ 情報社会の影の部分を知る。(校内 LAN の活用)
 - 「プロフ」の説明を簡潔に述べる。
 - プロフを基にして個人情報などがどこまで特定できるか実演する。(もし、先生が悪い人だったら)
- カ 個人情報 leaked の原因を考える。
 - 一つの情報からどのような情報が得られるかが分かるように。
- キ 情報社会で知らなければならないことを知る。
 - 全員をスクリーンに注目させる。
- ク 情報社会との関わりについてもう一度考える。

→本時の授業内容や自分の体験を踏まえて考えさせる。

③ 2年3組英語科 指導者 柚木美紀教諭 2年3組教室

題材名 Program6 Our Hopes, Our Plans (Sunshine English Course2)

インターネットの活用について

―――世界に目を向けられる真の国際人の育成を目指し、日頃から世界の状況に触れる機会を多くするために、インターネットを使って世界の天気についての会話ができるようにしたい。Program6 がインターネット会議の場面であることから、この課を利用してインターネットを活用することとした。

Program6 では、由紀が交換留学生として訪れたシドニーの学校の生徒たちと、テレビ会議で自分たちの将来について話し合う。To 不定詞を使った表現を理解し、自分の夢について表現できることをねらいとしたい。

学習内容

- ア あいさつ
- イ 天気にまつわる表現についての暗記活動

情報社会を生き残れ!

1年組番

インターネット(情報社会)の光と影

光 こんなところがスゴイ!

影 こんなところがキケン!

自分が注意していること

知らなきゃ危ない 5カ条

-
-
-
-
-

授業で活用したワークシート

- ウ インターネットを使っての世界の天気についての質問に答える。
→インターネットを導入部分で15分間活用する。
- エ 新出単語の発音練習
- オ 教科書本文のCDを聞く。
- カ 教科書本文の読み
- キ 本日の学習内容を確認しながら問題を解く。

平成 19年9月吉日

各教育委員会教育長 様
各小・中学校長 様

入間地区学校視聴覚教育連盟 会長 鯉沼 文夫
入間市立東金子中学校 校長 内藤 定芳

**平成19年度入間地区学校視聴覚教育連盟委
(財団法人)上月スポーツ教育財団助成事業
「ICT活用授業研究発表会」の開催について**

清秋の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、入間地区学校視聴覚教育連盟では、標記委嘱研究発表会を入間市立東金子中学校にて開催いたします。
つきましては、ご多用とは存じますが、多くの皆様にご参加をいただき学校視聴覚教育の充実発展を図るべく、ここにご案内申し上げます。

記

- 1 研究主題 「校内LANによるICTを活用した授業実践と、情報モラルを高める指導法の研究」
- 2 日 時 平成19年10月31日(水) 午後2時～午後4時40分
- 3 会 場 入間市立東金子中学校
〒358-0026
埼玉県入間市小谷田451-1
電 話 04(2962)7118
FAX 04(2962)8297
交 通 西武池袋線入間市駅より西武バス中神行 小谷田下車7分
- 4 内 容 (1) 校内LAN活用公開授業
(2) 情報教育講演会
- 5 日 程
13:40 14:00 14:50 15:10 16:40

受付	公開授業	移動 休憩	情報教育講演会	
----	------	----------	---------	--

- 6 公開授業(仮題)

英語(柚木美紀 教諭) 「世界のニュースから」	学級活動(山下真史 教諭) 「情報モラルを学ぶ」	理科(山元丈司 教諭) 「音の世界」
----------------------------	-----------------------------	-----------------------
- 7 情報教育講演会
講師 岡本 薫(おかもと かおる)氏 : 政策研究大学院大学 教授
演題 『回想: 学校教育情報化 ~学校情報化を妨げていたもの~』
講師略歴 東京都出身 東京大学理学部卒業 専門はコロロジー(地域地理学) 理系出身で初の行政職キャリアとして文部省に入省後、生涯学習、学校教育、情報化、著作権を始め多くの政策分野を幅広く経験し、本省で5つの課長を歴任 学習情報課長時代に小淵総理のタスク・フォース「教育情報化」のメンバー(内閣参事官)を兼ね、ミレニアムプロジェクトを企画 この間、OECDで国際公務員を2度経験 平成18年4月より現職 主な著書 「日本を滅ぼす教育論議」(講談社現代新書) 「学校情報化のマネジメント」(明治図書) 「国際化対応の重要ポイント」(全社連) 「新・不思議の国の学校教育」(第一法規) 他
- 8 後 援 入間市教育委員会 埼玉県学校視聴覚教育連盟 入間市教育研究会
- 9 備 考 本研究発表会の開催は、西部教育事務所(平成19年9月6日付西教第241号)により承認済みです。
- 10 申し込み 下記の参加申込書にご記入の上、入間市立東金子中学校教頭宛、10月17日(水)までにお送りください。(FAX可)

参加申込書

ICT活用授業研究発表会に参加します

所 属 名	職 名	氏 名

入間市立東金子中学校 FAX 04(2962)8297

研究発表会に向けて入間地区の全小中学校に配布したリーフレット

(6) 情報教育講演会の概要

日時 (5)の公開授業当日 15時10分～14時40分
 講師 岡本 薫(おかもと かおる)氏 : 政策研究大学院大学教授
 演題 『回想: 学校教育情報化 ~学校情報化を妨げていたもの~』
 講演の概要

回想: 学校教育情報化
 ~学校の情報化を妨げていたもの~

- その1: 「情報化」というものに対する視野の狭さ
- その2: 「学校教育と情報化の関係」に関する混乱
- その3: 現在の「パソコン」に振り回された人々
- その4: 「目的」と「手段」の混同
- その5: 「問題解決」を重視しない独善的な目標設定
- その6: 「人々のニーズ」を無視した「自分の夢」の押しつけ
- その7: 「コスト」を無視した商品の押しつけ
- その8: 「教科書準拠コンテンツ」の圧倒的不足

●その9：学校のマネジメント能力の未熟

※「情報モラル」とは何か?：「モラルとルールの混同」という日本人の大問題

(7) 三年計画2年目としての成果

本校の研究計画としての2年目は、上月スポーツ教育財団からの助成対処になり、ノートパソコンやプロジェクターの購入により、研修環境も格段に向上した。3年目となる20年度は目標完成年度であり、職員の資質向上策の完結をにらんで、校内LANの積極的な活用を目指した研修と、授業設計の研究を行った。

そろえた機器は手軽に持ち運びぶことが可能であり、日常的に利用しやすい環境を整備することで、教師の利用が少しずつ増えていった。ICTを活用した授業も、複数の教員により公開された。共に授業を見あうことで、生徒の関心や意欲が確実に向上していることを確認できた。

(8) 平成20年度の取組

本研究も3年目を迎えた。研修の成果を列記すると以下の通りである。

- ① 入間市学校ICT向上研修会を実施――（後述）
- ② 東金子中学校成人教育学級で「ネットいじめ」の講演とICT講習会を実施
- ③ 東金子地区青少年健全育成会における「ネットいじめ」と青少年非行の問題点についての講演会を実施
- ④ 情報機器の取り扱いに関する職員研修
- ⑤ 情報モラルの職員研修と「ネットいじめ」に関する出前講座に指導者を派遣
- ⑥ 5教科と実技教科にグループ分けしてコンテンツを探す教材研究を実施
- ⑦ 校内LANの活用に関する研修会の実施
- ⑧ 授業研究会（全職員が実施する校内LANを活用した授業）

3年目の最大の成果は、全職員が、情報機器を活用した授業公開を行ったことである。20年度は、新しい学習指導要領がいよいよその実体を表し始め、移行措置の中で選択教科をどうするのか、また、増加する理科や数学の指導についての考察など、本来予期していなかった研修題目が急増してきた。教育委員会に報告することになった学校評価や倫理委員会の実施などに多くの時間が割かれることになった。

その中でも、研究主任と研修部の努力で時間が生み出され、夏休みなどの長期休業日や少ない研修日を活用して、教材研究は実施された。グループごとに、授業で活用できる教材をネット上で探し、教員自らも開発を行った。

また、第3学年は、授業参観日に全クラスがインターネットを活用した授業を実践した。4クラスそれぞれにノートパソコンとプロジェクターが必要になったが、4台目のプロジェクターは、卒業記念品代を前倒しして急場をしのいだ。

授業研究の詳細は省略するが、各教諭が計画した授業実戦の記録一覧を以下に示す。

教諭	教科	単元名	学年	実施時期	概要
1 A	国語	真実を語る	1	11月下旬	微生物のECOについてネットで提示
2 B	理科	いろいろな力の世界	1	11月下旬	圧力・水圧・大気圧について
3 C	保健	保健分野	1	3学期	心と体の発達
4 D	英語	シンガポールからのお客さん	1	7月	地形図の等高線の読み方
5 E	数学	方程式	1	11月下旬	鶴亀算・関孝和の紹介

6	F	社会	身近な地域の調査	1	1 1月下旬	シンガポールの町の風景をインターネットで紹介
7	G	保健	保健分野	2	3 学期	タバコの害についてインターネットを活用して紹介する
8	H	数学	図形の証明	2	1 月	ピラミッド・ユークリッドの原論、日本の算額をみて、図形の証明の歴史にふれる
9	I	技術	技術とものづくり	2	1 1月上旬	電気ができるまでの様子や電気を通してエネルギーの問題などを紹介する
10	J	社会	世界から見た日本のすがた	2	1 1月上旬	世界各地の自然環境や生活・文化の様子をインターネットのサイトを見て日本との違いに気づかせる。
11	K	音楽	鑑賞	2	3 学期	世界の音楽の歴史・音楽家の生き方についてインターネットで紹介する。
12	L	国語	事実と意見 モアイは語る	2	1 2月	モアイがあるイースター島について資料提示をする。
13	M	国語	古典を楽しむ	3	11月～12月	古典作品の作者を映像で紹介する
14	N	数学	三平方の定理	3	1 2月	三平方の定理の歴史的背景を視覚で見る
15	O	英語	関係代名詞	3	11月～12月	偉人のスピーチしている様子を映像で見る
16	P	美術	鑑賞リーフレット	3	1 2月中旬	ゴッホの作品を紹介、リーフレットの手がかりとする。
17	Q	保健	剣道	3	1 2月	剣道の基本技を資料で学習した後、映像で深める
18	R	家庭	家庭科	3	11月中旬	食品を大きな3つのグループに分けてみる
19	S	理科	イオン 星の世界	外	1 0月中旬 1 0月下旬	イオンについて、動画でそのしくみを確認する 星座早見版を活用して日周運動・年周運動を確認する。

(9) 情報機器を活用した授業

実践 A

1 年理科 1 分野 単元名「音の世界」

インターネットのサイトから、振動数と振幅を表記することができるページを活用して、音の高低・大小と振動数、振幅の関係を考察する授業。

目の前で音が波形になって現れるので生徒の理解を進めるために効果的である。このように、インターネットのサイトの中には利用しやすいサイトがたくさんあることは魅力的である。

実践 B

3 年理科 2 分野 単元名「天体」

インターネットから、高画質の画像がプロジェクターを通して拡大して提示される。

実物提示ができないものをインターネットで提示することができるため、観察することが容易である。インターネットを活用することは、生徒にとっても、興味関心を高めることができると同時に、学習の効果が高い。



(10)入間市学校 ICT 向上研修会の実施

(8) の①にあげたように、この研修会こそは、今回の研究助成に係る重点の施策である。

筆者は、平成 10 年度から 15 年度までの 6 年間、小学校 2 校の校長を務めたが、当時の新教育課程は、小学校が平成 14 年度に全面実施になることが決定されていた。

「生きる力」を育むとする新しい施策の中で、「総合的な学習」の時間が新設されることになり、例示 4 項目が示された。この 4 項目を忠実に実行しようとする中、その中でも情報教育の役割は全ての領域に必須であり、当時の勤務校での研修の中心に情報教育を据え、集中的に行った。夏季休業中の研修時間 20 数時間を加えると、年間 40 時間以上を情報教育の研修会に費やし、コンピュータで指導できる教員は 100 % になった。

ところが、年度ごとに行われる人事異動で、毎年 5 人程度の異動が起こる。ほぼ例外なしに他校から来る教諭は情報教育の、系統的な研修は受けていないので、また一からのやり直しである。毎年、同じことの繰り返しである。

そこで、研修のやり方を変えることにした。市内の全教職員を対象に、ICT のライセンス講習会を実施することを思い立った。当時飯能市に勤務していたが、小中学校 20 校からは、情報教育推進委員会の委員が 1 名ずつ出てきていた。幸いなことに、教育センターの指導主事が優秀であり、校長会の支援も得ることができた。

この研修会は 2 日間 14 時間程度時間で、「一太郎」「WORD」中心の一般コースと、「PowerPoint」中心の発展コースを設定し、市内の 3 校で研修会を企画実行した。

研修会は好評で、初年度既に 47 名がライセンスを取得した。校長 2 名が含まれている。筆者は次年度に日高市に移動することになったが、その後平成 19 年度までの 5 年間で、市内約 400 名の教職員のうち、延べ 8 割が研修を修了したとの知らせがあった。

入間市ではこの種の研修会は実施されておらず、早くからこの研修を手がけたかったのであるが、幸運なことに上月スポーツ・教育財団の研究助成を受けたことで、条件のいくつかがクリアできた。「入間市学校 ICT 活用研究会」のメンバーを講師にお願いし、東金子中学校の他、藤沢東小学校を会場にお願いすることとして、入間市教職員全員に宛てて、700 枚の案内文書を発送した。(次ページ)

この 2 日間のライセンス講習は、当初見込んだような参加者が得られなかった。藤沢東小学校の会場はキャンセルし、指導者も東金子中学校に一本化した。

飯能市と同様に、修了証は入間市教育長名であるが、市町村間の人事異動の際にも有効になるように、埼玉県視聴覚教育指導者連絡会議の認定の元で、連絡会議会長との連名になっている。最終的に、12 名の修了証を発行した。

21 年度は、入間市の指導主事が意欲を燃やしているので、積極的に継続して行くことを期待したい。

当該の研修会には多くの条件がある。市教委との連携、校長会の支援、講師陣の充実、資金の確保、何よりも学習したいという教職員の危機感が必要であると切に思う。



記念すべき第一回研修会の状況

入間市学校ICT向上研修会のお誘い

主催 入間市学校ICT活用研究会

共催 入間市教育委員会 埼玉県視聴覚教育指導者連絡会議

実施責任者 東金子中学校長 内藤定芳

文部科学省が推進する「IT新改革戦略」にそって入間市の教職員対象のICT研修会を開催します。8月5日(火)と6日(水)です。会場は、入間市立藤沢東小学校と東金子中学校で、2日間の研修修了者には、修了書を発行します。夏季休業中の研修の一コマに入れてみてはいかがでしょうか。

1 研修会の概要 5日は午前8時30分～4時、6日は午前9時～4時の予定

コース	コース名	講習の概要・修了の要件	会場及び 会場責任者	受講資格
I	一太郎活用 一般コース (20名)	①情報教育の現状と課題 ②ネットいじめと情報モラル ③一太郎の活用とファイル操作 ④ITの授業活用 他	藤沢東小学 校 澤登秋夫 教諭	なし。 初めての方も ふるってご参 加ください。
II	パワーポイント 活用応用コース (20名)	①情報教育の現状と課題 ②ネットいじめと情報モラル ③パワーポイントで教材作り ※初めてパワーポイントを使う 人大歓迎。画像から、動画の 貼付を目指します。	東金子中学 校 山元丈司 教諭	一太郎又は WORD等で 漢字の入力が 可能な方

2 諸注意

- (1) 入間市に勤務する教職員ならどなたでも受講できます。講習費は無料です。
(財) 上月スポーツ・教育財団からの研究助成費をあてます。
- (2) 指導は、入間市学校ICT研究会会員他が行います。
- (3) 二日間 12 時間程度の講習で、情報モラルやセキュリティーの問題も含めます。
- (4) 昼食は、必要な方のために 600 円程度の弁当を当日朝注文します。
- (5) 各コースとも、希望者が 5 名に満たない場合は中止します。
- (6) 受講者は、直接各会場の運営責任者にお申し込みください。7月18日(金)締め
切りです。なお、希望者が多数の場合は、抽選の上お断りすることもあります。

IT研修会参加申込書 平成20年8月5日、6日のIT研修会に申し込みます。

藤沢東小学校
東金子中学校

所 属 校	氏 名

なお、当日の研修会参加者から、アンケートによる感想や意見をいただいているので、次回からの研修のために以下に列記しておきたい。

入間市「ICT 研修会」参加者アンケート 平成 20 年 8 月 5 日、6 日

1 この研修会に参加していかがでしたか。ご感想をお書きください。

(1) パワーポイントは、かねがね使ってみたいなあと思いながらも、なかなか学習する機会がなく、夏休みを利用したこういう研修会は私にとって願ってもないものでした。

こんなに素晴らしい研修会にもかかわらず、受講生が大変少なく、マンツーマンかそれ以上の講師の先生方のおかげで、コンピューターが苦手な私にもなんとかついてゆくことができました。

使わなければすぐ忘れてしまうので、さっそくいろいろと自分で苦しみながら、使いこなせるように努力しようと思っています。説明が本当にわかりやすく、ここまでどれほどの準備をされたかと思うと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。こういう機会を与えていただいた、関係者の方々皆様に厚く御礼申し上げます。ぜひ 2 学期からの授業に活かし、より良い授業にするよう努力してゆくことで、御礼にかえさせていただきます。本当にありがとうございました。

(2) 以前から興味があったパワーポイントについて、基本的な使い方から、動画を編集する応用的なところまで、楽しく研修させていただきました。

二日間という時間があっという間でした。

今回作ってみたものをもとに、さらに工夫を加えて、実際の授業で活用できるように、今後も自己研修を進めていきたいと思えます。わからないことがあったらお聞きさせていただくこともあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

二日間、ほんとうにありがとうございました。

(3) 本当に何もわからないところで、しかも、2 日目からという無謀な参加でしたが、講師の山下先生をはじめ、まわりの皆さんにいろいろ教えていただき、一応、パワーポイントの使い方がわかり、つたないながら、作品を仕上げることができました。和やかな雰囲気の中で、楽しく学ぶことができました。これを、今後の仕事の中に取り入れて、活用していきたいと思えます。本当にお世話をかけました。ありがとうございました。

(4) 今回の研修会に参加して、プレゼンソフト並びに動画編集を行いとても有意義な研修であると思えました。これを機会に積極的に授業の中で活用できるようにしたい。

(5) 改めて、勉強になりました。ありがとうございました。

(6) 入間市に校内 LAN が整備されます。このような中で、実際にどう活用していくのが、問題となります。このような地道な研修会を続けていくことが大切だと思います。

今回はこのような機会を与えていただき、校長先生をはじめ諸先生方には感謝しております。

2 このような研修会の実施について、今後への要望・期待などがありましたらお書きください。

(1) 今後の希望としましては、これを発展させた講習会、たとえば中級とか上級とかを行っていただけると、もっともっとスキルアップができると思えます。今後もこのような研修会を数多く開催していただけると本当にうれしくおもいます。エクセルやワードも使えないことはないのですが、より効率的な正しい使い方などを講習していただけるとありがたいです。

(2) テキストまで頂戴し、ほんとうにありがとうございます。自分でも研修を進めていきたいと思えます。夏休みの前半に設定していただいたことで、後半に復習できると思い

ます。二学期に生かせそうです。

今回、参加される方が少なかったようですが、パワーポイントを使いこなせる方がそんなに多いとも思えません。わたしもちょっといじったことがある程度でしたが、今回の研修でもっと使ってみたいと思いました。ぜひ、またこのような機会を作っていただけたらと思います。

(3) エクセルの使い方がよくわかりません。以前も、講習がありましたが、日程が合わずに、参加できませんでした。もし、また、企画していただけるとありがたいです。

(4) これからも定期的にこのような研修会を行っていただくことで、授業実践にいかせる教員が増えると思います。

(5) 先生方の認識が、もっと高くなって気軽に参加していただけるようになるとういなどと思います。まだ、苦手意識の先生も多いので、必要性をアピールする必要があります。

この研修会が、その機会になればいいと思います。

(6) 校内 LAN を実際に使って、授業研究会を各学校で実施していかなくてはならないのではないのでしょうか。市教育研究会の情報部で企画するなどしていく必要があるのではないのでしょうか。

5 情報モラルとネットいじめの問題に対する取組

(1) 深刻なネットいじめの問題

平成 20 年度は、「ネットいじめ」に関する国民の関心が急激に高まり、文部科学省も、小・中学校では携帯電話の校内への持ち込みを禁止し、高等学校では校内での使用を原則として禁止するような内容の通達を行った。ただ、中学校ではすでに 90%を超える学校が持ち込み禁止になっており、保護者との大きなトラブルもなかったようである。

これまで学校現場では、技術・家庭や特別活動でそれなりに情報モラルの問題や、セキュリティーの管理についての指導を行ってきたが、今日の深刻な問題に対処できるほどの内容ではなかったと思う。

埼玉県でも、15 名の委員からなる「ネットいじめ等対策委員会」が、平成 20 年 5 月 9 日に第一回の会合を開いていて、本校から校長が傍聴に出かけている。

(2) 東金子中のネットいじめ等問題点への対応

既に述べてきたように、本校では 3 年間にわたって校内研修会を進め、教員の資質向上に努めてきた。現在明らかなことは、児童・生徒がその意志の有無に係わらず、ネットいじめの渦中に置かれる状況が生じていることである。ところが、どのアンケートを見ても、保護者の無知とも言える状況が事件発生を助長しているのであり、筆者は、今後の学習主体を、児童・生徒から、保護者に移す必要があると考えている。

このような視点から、保護者向けにいくつかの講演会を企画し、校長としての筆者自らが講師として指導・啓発を行ってきた。

以下に示す資料は、

① 東金子中学校成人教育学級で PTA 役員を対象に

② 東金子地区青少年健全育成会における「ネットいじめ」と青少年非行の問題点についての講演会で地区の各委員、役員等を対象に

③ 校内研修会での指導テキストとして

④ 入間市学校 ICT 向上研修会で

など、収集した資料を元に PowerPoint のコンテンツを創り、指導してきた内容を更に冊子としてまとめたものである。

VI 情報モラルとネット犯罪への対応

はじめに

情報社会の進展による双方向の通信が可能になるに従って、ネット社会での青少年をとりまく問題行動が、大きくクローズアップされてきた。携帯電話やパソコンを使った、いわゆる「出会い系サイト」はいよいよ見えづらくなり、「ネットいじめ」や「ネットトラブル」が日常的に発生してきている。

- ・「ブログに中傷つらい」と遺書、北九州の高1女子自殺（2008/6 読売新聞）
- ・ネットに裸の写真を載せられ、「キモイ」などと書き込まれた神戸市の高校3年生が飛び降り自殺（2007/7 朝日新聞）
- ・ブログで同級生から中傷された岡山市の中3女子、遺書を残して列車にはねられ自殺（2007/10 朝日新聞）

全国的なネット犯罪の拡大に対応するように、都道府県レベルで対策のための委員会が立ち上げられ、埼玉県では、平成 20 年 5 月 9 日、15 名の委員によるネットいじめ等対策検討委員会が第 1 回の会合を開いている。

また、青少年育成埼玉県民会議の名称で各家庭に配布された「保護者の皆さん！お子さんが携帯電話で何をしているかご存じですか？」は、A 3 の両面刷りである。「携帯電話には『危険』が潜んでいます。」という啓発文書では、主に次の 4 つのサイトについて警鐘を鳴らし、「フィルタリング・サービスの活用」を呼びかける。

出会い系サイト

男性と女性との出会いを目的としたサイトです。18 歳未満の少年少女は、法律で利用できないことになっています。

アダルトサイト

わいせつ、ひわいな画像などが掲載され、利用すると高額な利用料金を請求されることなどがあります。

学校裏サイト

学校の非公式な匿名掲示板のことです。ほとんどが携帯電話からのアクセスしかできず、いじめの温床になっています。

チェーンメール

人の善意や関心、不安を利用して多くの人に連鎖的に電子メールを出させるものです。「不幸の手紙」のメール版です。

出会い系サイトによる被害者の 80 % 以上が 18 歳未満の青少年、そして…そのほとんどが、携帯電話からアクセスをした女子中・高生です！とする。

1 児童生徒が利用する携帯電話等をめぐる問題への取組の徹底について

これは、平成 20 年 7 月 25 日付で、文部科学省初等中等教育局長及び、スポーツ・青少年局長から、全国の都道府県教育委員会を經由し、各学校に指示がなされた通知のタイトルである。

この文書では、問題点を次のように認識して警鐘を鳴らす。

児童生徒が、携帯電話のメールやインターネットを利用する機会は、近年急激に増加してきており、それに伴い、インターネット上の学校非公式サイト（いわゆる「学校裏サイト」）等を利用し、特定の児童生徒に対する誹謗中傷が行われるなど、「ネット上のいじめ」という新しい形のいじめが生じています。また、児童生徒がいわゆる出会い系サイト等のインターネッ

ト上の有害な情報に携帯電話からアクセスし、犯罪に巻き込まれる事件も相次いでいます。

(1) 今後5年間に取り組むべき施策

今回策定された「教育振興基本計画」（平成20年7月1日に閣議決定）では、第3章で「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」として、2つの基本的方向を示した。

基本的方向1 社会全体で教育の向上に取り組む

- ① 学校・家庭・地域の連携・協力を強化し社会全体の教育力を向上させる
 - ア 関係府省が連携して社会の有害環境から子どもたちを守るための取組の体制を整備する
 - イ 保護者をはじめとする関係者の意識向上に向けた啓発活動を実施する
 - ウ 子供が使用する携帯電話等において、原則としてフィルタリングが利用されることを目指す
 - エ 各種メディアへの過度な依存による弊害について啓発する
 - オ 地域、学校、家庭における情報モラル教育を推進する

基本的方向2 個性を尊重しつつ能力を伸ばし、個人として、社会の一員として生きる基盤を育てる

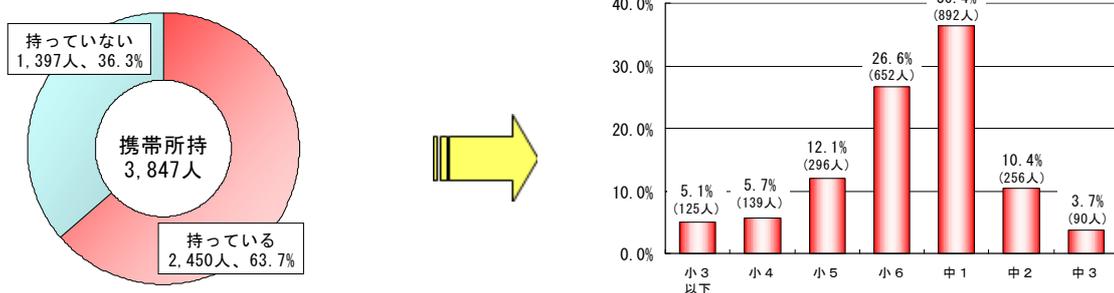
- ② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体をつくる
 - ア いじめ、暴力行為、不登校、少年非行、自殺等に対する取組の推進
 - イ 問題行動を起こす児童生徒への毅然とした指導を促す
 - ウ 未然防止、早期発見、早期対応につながる効果的な取組や関係機関等と連携した取組、いじめられている児童生徒の立場に立った取組の促進

2 「ネット犯罪」「ネットいじめ」の背景

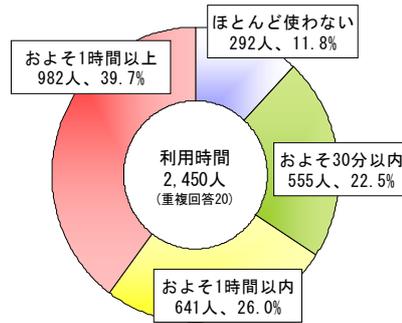
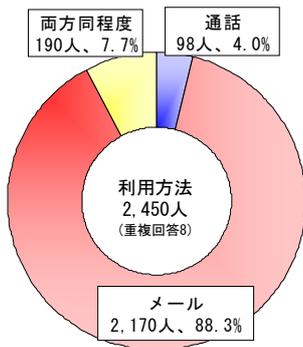
ー埼玉県内の中学生における携帯電話等の実態調査の結果からー

以下に示すグラフデータは、埼玉県総務部青少年課が行った調査の結果で、中学1年生～3年生までの3,847人と、その保護者2,820名が対象になっている。調査は平成19年9月1日から30日までに行われた。

ア 携帯電話の所持及び使用しはじめた学年（生徒回答）



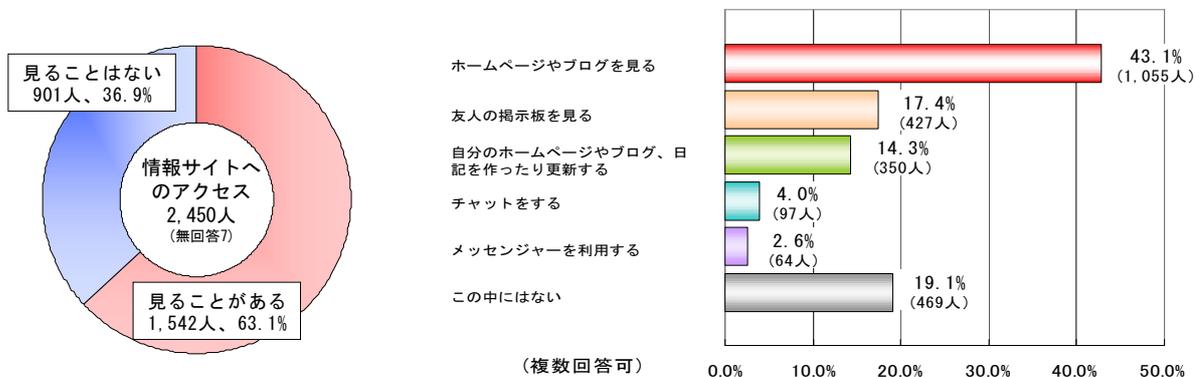
イ 携帯電話の利用方法及び1日の平均利用時間（生徒回答）



ウ 情報サイトへのアクセスと内容 (生徒回答)

ア、イ、ウ、の調査によれば、携帯電話については、全生徒の3分の2近くが所持し、使い始めた年齢は、中学1年生が一番多く、次いで小学校6年生になっている。

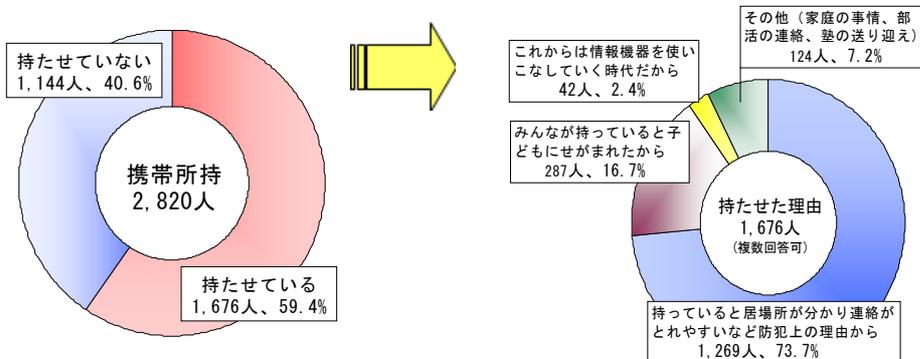
主な利用方法については、メールが9割近くを占め、通話に使っているのは、通話のみと、メールと両方同程度と答えた生徒を合わせても、12%に満たないことが注目される。保護者が買い与えた目的と併せて考えたい。



情報サイトへのアクセスについては、3分の2近くの生徒が見ることがあると答えており、ホームページやブログを見ると答えた43.1パーセントの他に、自分のホームページやブログ、日記を作ったり更新する者が14.3%いると答えている。

エ 携帯電話を所持及び持たせた理由 (保護者回答)

この調査から注目したいことは、携帯を持っていると「居場所が分かり連絡が取れやすいなどの防犯上の理由から」という保護者の割合が、その他の家庭の事情を含めて80パーセントを超えることである。GPS機能の付いた携帯で自分の子供の位置を確かめ、肉

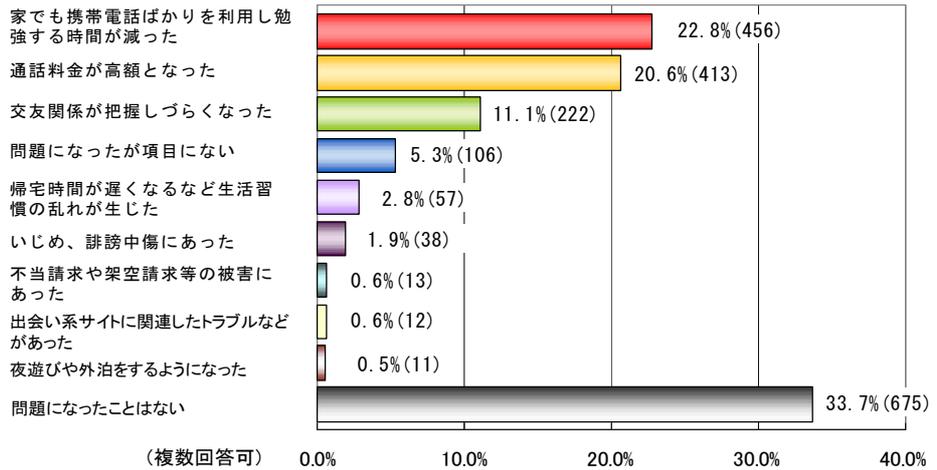


声を聞いてその安否を確認したいとする保護者の希望に反して、子供の約9割はメールに依存しているという現状からも、携帯所持の賛否両論を巻き起こしてい

る。

オ 携帯電話利用による問題（保護者回答）

次ページのグラフから、非行に繋がる場合のみでなく、生徒の家庭生活や学習時間、交友関係などに少なからず影響を及ぼしていることが読み取れる。



3 情報モラルの指導

文部科学省初等中等教育局は、平成 20 年 8 月 8 日付で、『情報モラル指導ポータルサイト～やってみよう情報モラル教育～』の公開について という文書を、各都道府県経由で各学校に通知した。7 月に文部科学省が公開したポータルサイト (<http://www.japet.or.jp/moral-guidebook/>) を紹介し、新学習指導要領を踏まえた情報モラル教育の充実を促している。

モラル教育の推進に対しては、政府の「IT 戦略会議」や平成 20 年の「教育振興基本計画」等でその推進が重点施策として位置づけられている他、『JAPET 日本教育工学振興会』が文部科学省委託事業としてまとめた「情報モラル」指導実践キックオフガイドなど、指導資料は容易に入手できる。

なお、先のポータルサイト広報文書の添付資料によると、市区町村教育委員会の調査結果概要が次のように提示されている。

1. 情報モラル教育のための教育研修を実施している。

- ①実施している 4 1 4 (2 7 %)
- ②今後実施予定 1 2 (8 %)
- ③モラル教育のための教員研修は実施していないが、他の教員研修の中で、情報モラルに関する内容を取り扱っている 3 4 5 (2 2 %)
- ④実施していない 6 7 0 (4 3 %)

3. 学校現場が教育課程の編成に参考とすべき情報モラル教育に関するモデルカリキュラムを作成しているか。

- ①作成済み 7 0 (6 %)
- ②今後作成予定 3 6 0 (2 3 %)
- ③作成していない 1 0 9 9 (7 1 %)

【ネット犯罪とその現状に関する保護者向け指導の事例】

日時：平成 20 年 6 月 6 日

対象：平成 20 年度東金子中学校成人教育学級

講演「インターネット時代の光と影」・・・講師 内藤 時間約 45 分

J U S T システム・A g r e e 使用

◇ 講演の概要

- ・「ブログ苦に？高 1 自殺」
- ・新聞の記事から

- ・顔知らぬメル友 5 人
- ・携帯電話の所持使用しはじめた学年
- ・携帯電話の利用方法と利用時間
- ・ネット問題のいろいろ
- ・埼玉県が「ネットいじめ等対策検討委員会」を発足
- ・下田研究室（群馬大学）に寄せられた相談
- ・なぜこんな問題が起こってしまったのか
- ・フィルタリングの認知と利用状況
- ・ホームページ、ブログ、プロフとは
- ・小中学生の携帯使用制限 他

◇ 講演後の主な質疑

- ① フィルタリングとは何か。これをかけると安全か。
- ② フィルタリングはどこでやってくれるのか。有料か。
- ③ メールによるいじめなどが分かったとき、警察で処置してもらった話があったが、学校ではやれないのか。
- ④ このような貴重な話を、もっと多くのお母さんに聞いてもらいたい。保護者会の後などに、設定できないだろうか。
→ ネットいじめは、いつどこで子供達がやっているか分からない。やはり、買い与えている保護者が認識して行動しなければ、問題は解決しない。保護者向けに、講演会などを授業参観日に行えるか考えている。
- ⑤ モバイルコンピュータとはなんですか。
- ⑥ 感想など
貴重な資料を見せてもらって有り難かった。やはり、多くの親に聞いてもらって、みんなで子供の安全を考えた方がいい。



なお本文書は、筆者が会長を務める「埼玉県視聴覚教育指導者連絡会議」が編集した、「マルチメディア時代における教育メディアの活用」の追補版第VI章として記述されている。本書は、全国教育新聞社から発行されているが、購入者に対して無償で追補版が交付されることになっている。

また、21年の3月23日(月)には、全国カウンセリング協議会の安川雅史氏による「ネットいじめからわが子を守る」という講演会を、東金子中学校で実施することができた。学年末の大変多忙な中での実施であったが、この研修会のターゲットは保護者であり、市教委と連携したこのような学習機会が、今後ますます必要になってくるものと考えている。

6 研究の成果と課題

当初計画した3年間の研究目標の成果として次の点をあげることができる。

- (1) 教職員が情報機器の有効性を知り、活用することに積極的になった。
- (2) 情報機器の整備が進み、授業の形態や質が確実に変化してきた。
- (3) 生徒が積極的に情報機器を活用するようになった。
- (4) 「ネットいじめ等」の問題に対処するための事例やノウハウが多く蓄積され、研修の成果で担任レベルでの指導が可能になった。
- (5) 念願だったICT向上研修会の第一回が実施できた。
- (6) 人間地区の多くの先生方に、ICTを活用することの良さを啓発できた。

課題として、

- (1) 情報規定の遵守。教員間で、継続的に徹底する必要がある。
- (2) 生徒の利用範囲の拡大をどう図っていくか。
- (3) 「ネットいじめ等」の問題について、系統的に保護者の意識を変容させる必要があること。見届けをいかに行うか。

7 おわりに

インターネットを活用した英語の授業の中では、外国のリアルタイムの映像が流され、生徒たちは興味関心をもってその映像を見ている。また、理科の星空の動きなど、実際に観察することができないものを、様々なコンテンツを活用して生徒に提示することで、理解を深めることができた。

教師による情報機器の活用が盛んになるにつれて、総合的な学習や各委員会の発表などにおいても、情報機器を活用する姿が日常的に見られるようになった。

幅広い年齢層で構成される職員集団の中には、情報機器を活用することに抵抗がある職員も少なくない。また、情報機器の利用価値は認めるが、手間がかかり、あと一步の垣根を乗り越えることに抵抗がある職員もいる。今後情報部の職員とも連携し、授業で活用可能なサイトを開拓し、教職員に紹介することでより活用しやすい状況づくりをすすめていきたい。

最後に、今回2年間に渡り研究助成をいただいた、上月スポーツ・教育財団に感謝申し上げます。本校の研究はまだ緒についたばかりであるが、教師集団が獲得した資質と自信は、学び続ける生徒達にとって、大いなる自尊感情を生み出す起点となるはずである。

筆者は今年度で定年退職になるが、限りない意欲と希望は、間違いなく職員に受け継いだものと自負している。東金子中学校を始め、入間市内の各校の今後の充実発展を祈念しながら、教員生活の終筆としたい。

参考文献

- 1 文部省、中学校学種指導要領解説 理科編、1999
- 2 (社)日本教育工学振興会、先生と教育行政のための ICT 教育環境整備ハンドブック 2007
- 3 (社)日本教育工学振興会、すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド 2008.03.15
- 4 埼玉県教育委員会教育長、児童生徒が利用する携帯電話等をめぐる問題への取組の徹底について 2008.07.29
- 5 青少年育成埼玉県民会議、「お子さんが携帯電話で何をしているかご存じですか？」リーフレット 2008
- 6 埼玉県総務部青少年課、埼玉県内の中学校における携帯電話等の実体調査の結果から 2007
- 7 内藤定芳、「マルチメディア時代における教育メディアの活用 追加補充版」 2008.10.15
- 8 岡本薫、日本を滅ぼす教育論議 (講談社現代新書)
- 9 安川雅史、「学校裏サイト」からわが子を守る 2008.6.4